熊本地震復興支援会議　現地調査概要報告

日時：平成 28 年 6 月 18 日（土）10:30～17:30（博多駅 9:15 集合、新幹線 9:32～10:13）

場所：熊本市内、益城町、南阿蘇村

メンバー：甲斐本部長、佐竹副本部長、長野副本部長、江口副本部長、矢ケ部防災委員長、
永岩青年技術士交流委員長、田沼建設部会長、味澤泰夫、寺地事務局長　9 名
（熊本県支部）兼子熊本県支部長、津山防災委員長　合計 11 名
うち、四角枠 4 名については、15:00 県支部緊急報告講演会、意見交換会へ別行動

【調査結果概要】

（熊本市内）

・上熊本駅周辺から屋根にブルーシートの応急対策が多くなる。

・熊本中心市街部では、コンクリート構造物の被災は少ないが、古い木造家屋の壁、ひさし、瓦屋根の損傷が目立つ。

（益城町）

・高速道路のある東部に向けて一般家屋の柱、屋根の被災が多くなる。

・秋津川右岸道路では部分的に農地との間に幅 1m、深さ 2m の亀裂、延長約 80m 程度で 1m の段差があるが河川堤防の地震動による局部沈下とみられる。河川両岸には高さ 1m の大型土嚢による越流対策がある。

（被災前は路面とハウスが
同じ高さだが沈下した。）

亀裂

Google から転写　被災前

・九州道熊本空港 IC～嘉島 JCT 間の盛土崩壊部（下り線）は盛土部から秋津川橋にかけて応急復旧中である。

・道路の応急復旧とガレキの啓開処理がなされ通行可能となった。
家屋の処理はまだである。

益城町寺迫の県道 28 号北側

県道 28 号南側

路面のひび割れは補修されたが、波打っている。

ガレキ処理はまだである。

秋津川から台地への町道

・秋津川上流部の盛土部が沈下、側方流動している。

木山中学校校門のマンホール

校門逆方向のひび割れ、沈下

・河岸段丘部の法面では
落石・崩壊も生じている。

台地と低地との崖錐部

深さ 1m 程度の表層崩壊

（地表断層）
・益城町津森では活断層が地表に明確に現れている。

右横ずれ断層約 2m

京都大学がトレンチ調査中

・益城町被災前の市街地と踏査地

出典：Goole　被災前市街地に加筆

（南阿蘇村）

・山岳斜面の崩壊が多くなってくる。

・烏帽子岳周辺には新しい崩壊地が見える。

・阿蘇中岳の南には家屋被害は少ない。

・外輪山のうち立野口白川左岸、赤水西側の黒川右岸に斜面頂上部からの崩壊が見られる。

右から根子岳、中岳、烏帽子岳

立野口白川左岸の斜面崩壊

赤水西側　黒川右岸の斜面崩壊

（阿蘇大橋地区）

・大規模な崩壊で JR、国道 57 号、国道 325 号阿蘇大橋が被災した。

・白川両岸でも崖錐部が多数崩壊している。

・グランドアンカーの法面は崩壊していない。

・325 号阿蘇大橋の約 100m 東を断層亀裂が走っている。

センターラインが約 1m 右横ずれ

断層部で地質調査中

・東海大学学生のアパートなど家屋被害、宅地被害が多い。

・断層付近のアーチ石橋

大正時代の旧街道床瀬川端

（阿蘇跡ヶ瀬地区陥没）

アーチ部本体は形をとどめている。

・国道 57 号とカルデラ壁の間で

田園地帯の一部に多数のひび割れ

、沈下の現象が集中している。

地層の特徴と地震動、活断層との関係

など原因解明が待たれる。

路面の凹凸が激しい。

亀裂、沈下の向きが一方向ではない。

（終わりに）

・帰路は、ミルクロードとした。別名「清正公道」でもある。沿道の東屋も倒れていたが、二重の峠経由は一部の崩落箇所の応急対策の上、幹線道路として代替機能を果たしている。この区間は、中九州道路の調査路線ながら休止しており大きな視点で道路網の再認識が望まれる。

歴史街道の休憩地　東屋も倒壊

・今回調査は、被災地現状を外部から見ただけであった。今後、被災者や事業者、行政なども含めて、技術士会として支援できる幅広い分野から課題を把握し、復興支援していくことが求められる。

調査メンバー11 名（九州本部 9 名、熊本県支部 2 名）

昼食をとった「横井小楠」公園

銅像、石碑も倒壊、ベンチも上下振動で破壊か。

（参考）横井小楠（よこいしょうなん　1809 年～1869 年）熊本藩藩士

江戸末期の儒学者、明治維新に寄与。松蔭、竜馬、海舟らと多数知己を得る。第一の弟子は徳富一敬（水俣）でその子息徳富蘇峰、蘆花も熊本に学ぶ。蘇峰は後、阿蘇に来て「大観望」の名付け親。

（調査概要報告　文責　寺地）